令和6年産米
栽培記録簿（直播）
（GAP確認シート付）
～JA米基準～

地　区	生産組合
氏　　名	
住所・電話	富山県下新川郡 TEL（　　　）　―
品　種　名	
出荷区分	出荷契約米 ・ 加工用米 ・ 備蓄米 米粉用米・輸出用米・飼料用米

★ 提出は、収穫後、出荷前までお願いします。
★ 出荷の有無を問わず、生産者全員記帳・提出をお願いします。
★ 作業を終えたら、忘れずに記帳しましょう。

JAみな穂　栽培記録簿　検索

ホームページからダウンロードもできます！

JAみな穂

令和6年産米　栽培記録簿・GAPチェックシート①

種子	購入先：　ＪＡ　・　その他（　　　　　）
	数　量：　　　kg（消毒種子　・　未消毒種子）
	播種量：　　　kg /10a
	コーティング種類 カルパー　・　鉄　・　乾田　・　リゾケア
	コーティング 個人　・　委託（　　　　　）

区分	作業名等	作業月日等
本田管理	耕　　起	月　　日～
	荒代かき	月　　日～
	代かき	月　　日～
	播　　種	月　　日　～　月　　日
	中　干　し	月　　日　～　月　　日
	出　穂　期	月　　日～

作業名	作業月日	
収　　穫	月　　日～	個人・委託（　　　）
乾燥・調製	月　　日～	個人・委託（　　　）

出荷日	月　　日～

※ＪＡ記入

記録簿確認
確認者氏名 （地区担当者）

安全安心担当者	課　長

『とやまGAP』の実践でより良い農業を！

①安全な農産物の生産
生産した農産物が人の健康にとって安全かどうか
②環境の保全
農業生産活動に伴って周辺環境が脅かされていないかどうか
③農業者の安全確保
農業者の安全が確保されているかどうか

上記3つの視点から農業生産活動に潜むリスク(危険)を事前に把握・分析しておき、リスクの発現を未然に防ぐことで、結果として『良い』農業生産活動とする取組みが『GAP』です。

『GAP』の実践

『計画』に対し『実践』、『点検・評価』、『見直し・改善』を繰り返す『PDCAサイクル』を用い工程管理を行っていくことがGAPの実践になります。

計画（Plan） 自らのGAP規準を設定しましょう。その達成に必要な取組事項を決め、チェックシートを作ります。

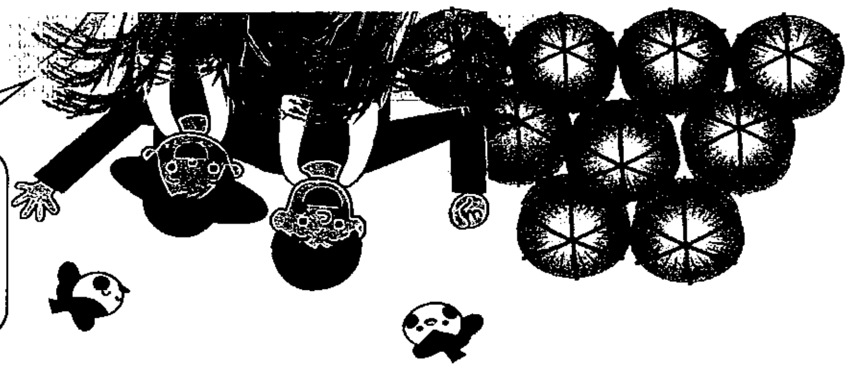
実践（Do） チェックシートで記録を残しつつ、農作業を実践します。チェックによってうっかりの忘れや間違えを防止！

点検・評価（Check） 農作業が終わったら、取組事項が実施できたか、問題が生じなかったかなどを確認しましょう。

見直し・改善（Action） 点検の結果、改善すべきところが見つかったら、改善の方法を考え、取組事項に反映しましょう。

継続的な見直しで改善・向上

～Good（良い） Agricultural（農業の） Practice（実践）で、安全・安心な種米を消費者に～



作業終了後の記入を徹底しましょう。
記入漏れやGAPシートのチェック漏れに注意しましょう。

ＪＡ米の条件

①品種が確認できた種子により栽培した米穀
②登録検査機関で受検された米穀
③栽培記録簿の記帳内容をJAが確認し適切であると認めた米穀

令和6年産米　栽培記録簿・GAPチェックシート②

氏名

品種		区分	出荷契約米・加工用米・備蓄米 米粉用米・輸出用米・飼料用米
面積	a		

区分	ﾁｪｯｸ	肥料名	施用月日	施用量
土づくり		珪酸石灰（粒）	月　日～	kg/10a
		シリカパンチＦ		
		アサヒニューテツ		
		発酵ケイフン（粒）	月　日～	kg/10a
基肥		苦土重焼燐	月　日～	kg/10a
		基肥２０６号（側条施用）	月　日～	kg/10a
		LPSS直播コシヒカリ（側条施用）		
中間追肥		エスアイ加里らくだ	月　日～	kg/10a
穂肥		①追肥３号	月　日～	kg/10a
		②追肥３号	月　日～	kg/10a
			月　日～	kg/10a

区分	ﾁｪｯｸ	農薬名	使用月日	希釈倍数	使用量
種子消毒		モミガードC・DF（塗抹処理）	――	7.5倍	――
			月　日～	倍	
コーティング		カルパー粉粒剤16	月　日～	――	乾籾重量の等倍
		タチガレエースM粉剤	月　日～	――	乾籾重量の3%
		ルーチンシードFS	月　日～	――	乾籾1kg/6～12ml
		ヨーバルシードFS	月　日～	――	乾籾1k/11ml
		エバーゴルシードFS	月　日～	――	乾籾1kg/10ml

※設問に該当する場合は、右側のチェック欄に✔を記入して下さい。

【作付け計画】	チェック時期（目安）	チェック✔
農事座談会への参加やパンフレット（直播特報等）の活用などにより情報収集しましたか。	3月	
経営規模・機械装備に応じ、バランスの取れた品種構成で作付けを計画しましたか。	3月	

【播種作業】		
播種機の播種量・施肥量を事前に点検、確認しましたか。	4～5月	
一筆毎（10a単位）に種子・肥料の落下量が適切か確認しましたか。	4～5月	
作業終了時、品種の切り替え時に播種機の掃除を行いましたか。	4～5月	

【土づくり】		
土づくり資材（ケイ酸質資材等）や有機物（堆肥、緑肥等）の施用による土づくりを行いましたか。【とやまGAP14】	4月	
稲わらは野焼きせず、堆肥の原料や飼料として利用したり、ほ場にすき込むなど適正な処理をしましたか。【とやまGAP36】	前年11月～	

【肥料の適正使用】		
基肥は「稲作ごよみ」による施用基準等に則して、適正に施用しましたか。【とやまGAP16】	5月	
生育量に応じて、適正に追肥（穂肥）を施用しましたか。【とやまGAP18】	7月	
肥料の購入伝票を保存するとともに使用状況を生産履歴簿等に記帳をしましたか。【とやまGAP34】	随時	

【登熟期間の湛水管理】		
出穂期から２０日間の湛水管理（田面水の深さ２～３cm程度）を行いましたか。（稲体の活力維持、カドミウムの吸収抑制）【とやまGAP31】	8月～9月	

区分		ﾁｪｯｸ	農薬名	使用月日	希釈倍数		使用量
除草剤			ベルーガ1キロ粒剤	月　日～	――		kg/10a
			ベンケイ1キロ粒剤	月　日～	――		kg/10a
			ディオーレ1キロ粒剤	月　日～	――		kg/10a
				月　日～	――		/10a
				月　日～	――		/10a
本田防除（防除方法を○で囲って下さい）	粒剤		ルーチン粒剤	月　日～	――		kg/10a
				月　日～	――		kg/10a
	粉剤		①ブラシントレバリダ粉剤ＤＬ（共通）	月　日～	――		kg/10a
			②ラブサイドキラップ粉剤ＤＬ（共通）	月　日～	――		kg/10a
			③スタークル粉剤ＤＬ（早生）	月　日～	――		kg/10a
				月　日～	――		kg/10a
	液剤		①ﾓﾝｶｯﾄﾌﾛｱﾌﾞﾙ+ﾄﾚﾎﾞﾝEW（早生）	月　日～	倍	倍	㍑/10a
			①ﾓﾝｶｯﾄﾌﾛｱﾌﾞﾙ+ｽﾀｰｸﾙ液剤10（中生、晩生）	月　日～	倍	倍	㍑/10a
			②ラブサイドK2フロアブル（共通）	月　日～	倍	倍	㍑/10a
			③スタークル液剤10（早生）	月　日～	倍	倍	㍑/10a
				月　日～	倍	倍	㍑/10a
	無人ヘリ／ドローン		①ﾓﾝｶｯﾄﾌﾛｱﾌﾞﾙ+ﾄﾚﾎﾞﾝｴｱｰ（早生）	月　日～	倍	倍	0.8㍑/10a
			①ﾓﾝｶｯﾄﾌﾛｱﾌﾞﾙ+ｽﾀｰｸﾙ液剤10（中生、晩生）	月　日～	倍	倍	0.8㍑/10a
			②ラブサイドK2フロアブル（共通）	月　日～	倍	倍	0.8㍑/10a
			③スタークル液剤10（早生）	月　日～	倍	倍	0.8㍑/10a
				月　日～	倍	倍	0.8㍑/10a

その他取組作業のチェック項目（該当作業にチェックをお願いします）

□専用機械で肥料を播種と同時に施用している。	□専用機械で除草剤を播種と同時に施用している。
□スマート農機の活用（水管理システム・GPSコンバイン・Z-GIS等の営農管理システム）	□土壌診断を踏まえた施肥・土づくりを行っている。

【農薬の適正使用】	チェック時期（目安）	チェック✔
農薬は「稲作ごよみ」や農薬ラベルに記載されている使用量、時期、回数を守って使いましたか。【とやまGAP25,27】	随時	
農薬散布時は防護マスク、手袋、長そで、長ズボンを適切に着用しましたか。【とやまGAP9】	随時	
代かき後の濁水の流出防止や除草剤施用後7日間の止水管理をしましたか。【とやまGAP17】	5月～6月	
周辺作物や住宅地等への農薬の飛散防止と防除前の周知に努めましたか。【とやまGAP30】	随時	
動力散布機・噴霧機等の使用前後に点検とタンクの清掃を行いましたか。【とやまGAP26】	随時	

【廃プラスチックなどの適正処理】		
肥料袋、農薬の空容器などの農業用の廃プラスチック類はJA等の廃プラ回収により適正に処理しましたか。【とやまGAP35】	随時	

【燃料の適正管理】		
燃料は専用の容器に入れ、風通しの良い場所で保管していますか。【とやまGAP33】	随時	

【収穫・乾燥・調製】		
コンバインや施設内等の清掃・点検を徹底し、異品種や異物が混入しないよう、注意しましたか。【とやまGAP37】	8月～9月	
籾黄化率などを確認し、適期収穫を行いましたか。	8月～9月	
米穀収穫後、乾燥は適切な温度管理で行いましたか。【とやまGAP39】	9月～	
玄米の出荷容器の記載事項、量目をきちんと確認して袋詰めしましたか。【とやまGAP40】	10月～	